

令和5年度第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 令和5年8月7日（月）13:30～14:20

2 場 所 福知山公立大学4号館4階会議室

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員長、大久保職務代理 (会場参加) 菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	田村室長、谷口次長、足立課長補佐、塩見主査、吉田職員
福知山公立 大学	(議題終了後) 川添理事長兼学長、岸本事務局長、竹元AM

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題(1)】 令和4年度に係る公立大学法人福知山公立大学の業務実績に関する評価結果について	評価委員会での意見交換。最終評価の決定。
2	【議題(2)】 公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び余剰金の使途の承認について	事務局から【資料4】【資料5】により財務諸表及び余剰金の使途の承認について説明。
3	【その他】 公立大学法人への報告と学長からの意見	評価結果について、評価委員長から学長へ報告。

5 次第

(1) 開会

(2) 開会挨拶 青山委員長

(3) 議題(1) 令和4年度に係る公立大学法人福知山公立大学の業務実績に関する評価結果について

(委員)

- 年度計画番号7番と57番について、評価委員会の評価について大学から意見をいただいている。7番については、大学から自己評価を4にした理由について3ページに渡って細かく意見が届いている。57番については、教員そのものについての評価に関しては書いてなかったので評価委員会では低い評価をつけたが、しっかり評価をやっていたという意見書がでてきている。これを受けて評価委員会としてどう判断するか、議

論したい。

まず、7番と57番について、委員のみなさまから意見をいただいた上で、この評価委員会としてどうするか決定したい。

(委員)

- 年度計画番号7番について、前回の評価委員会の中で6番と7番の関係もある中で具体的に進んでいないということで3をつけたと思うが、大学側の認識としては、数学と情報の教員課程の設置に向けたプロジェクトが検討段階を超えて設置準備に入ったということなので、大学の評価どおり4でいいのではと思う。
57番については、最初いただいた資料では教員の評価について読み取れなかったが、意見書を見ると教員の評価制度を進めているということも読み取れたので良いかと思う。ただ、市民に対しては評価書しか出ないのではないか。意見書も併せてみないと判断できないので、評価を3とするのは無理かと思う。

(委員)

- 市事務局に聞くが、意見書は市民にも公開されるのか。

(福知山市)

- この会議は公開されており、傍聴人の方にも資料として見ていただいている。ホームページでも資料として公表する。

(委員)

- 評価書だけだと誤解を招くかもしれないが、意見書も資料として添付されるという事なので、今日の評価委員会の評価も理解してもらえと思う。

(委員)

- それなら3で良いかと思う。

(委員)

- 地域経営学部の公民について、検討に入っただけでなく、見合わせるという結論を出したという点で評価を上回るのかと思うが、設置は難しいという判断なので、上回っているとは言え心情的には残念であり4という評価は難しいのかなと思った。一方で情報学部の方では高校の数学だけではなく中学校の数学課程も含めて検討を重ねた結果、前向きに進めているという意見が書かれている。ここは大きな前進と思える。数学科の方に期待する気持ちもあるので、評価を4としてもよいかと思う。
57番については先の委員と同じ考え。3で良いと思う。

(委員)

- 公民の免許を諦めることは妥当かと思うが、そもそも公民の免許については検討する必要もなかったのではないかと思う。公民は地歴とセットで採用されるので、公民だけでは採用されない。検討する時間がもったいなかったのではと思う。むしろ情報学部における数学と情報の教員免許について、現場も困っているところであるし、まず検討してほしかった。

評価については、大学もいろいろ検討される中でやっておられる中で数学の教職課程について前向きにすすめていることを評価して4でよいと思う。

57番については、先の委員と同じ意見で3としたい。

(委員)

- 7番の教職課程について、前回コメントとも少し重複するが、おさらいの意味を込めて

申し上げたい。

公民については、公民だけでは採用されない、現場に立てないという事があるので、目標に置いたとしても見送るという決断が勇氣ある撤退と言えるのか、疑問がある。情報に数学を足すという事は意味がある。

課題としては大学教員を増やさなければならない、組織を作らなければならないという事が挙げられていたがその通りで、教員の免許を出すには教職課程の認定が別で行われるが、現場に立つ教員の資質と能力を厳しい目で吟味するというもの。教員に研究の業績があったとしても、小中高は学習指導要領に則った指導をする必要があるので、その観点での業績というものが求められる。例えば教科書を執筆されたなどが高い評価を得ることがポイントとなる。一般の大学教員の研究レベルとは違うところでの難しさがある。

また、組織的に教職課程を運営しなさいと言われる中で、一般的には教職センターというものを大学組織として作りなさいという事が言われている。

それから実習先の確保は地元の協力を得ながらやっていかなければならない。それを下支えする職員も必要。例えば、校長経験者のような方が必要。

教職課程の認定を受けるのはものすごくハードルが高い。このような中で現状では評価を4とするのは厳しいのではないかと前回の委員会でコメントした。

一方で、優秀な教員を地元に出すという期待を込めて、先に意見を述べられた3名の委員さんも評価されたのだと思う。この大学から優秀な教員が出てくると地域の活性化にもつながると思うし、厳しいコメントもしたが、ここまでの活動を評価するという意味で4でも良いと思う。

57番については情報量が少なくて3がつけられないとコメントしたが、意見書ではかなり細かく情報が載せられている。大学教員の評価というのは、教育・研究・社会貢献・管理運営と多岐にわたるが、文系と理系、大学院の有無によって求められるものが違う。福知山公立大学では教育と社会貢献のウエイトが大きいという事で、この制度の実施には困難が多いと思うが、しっかりと準備をするという目論見が意見書には書かれたので、3で良いと思う。

(委員)

- 最後にまとめて評価案を述べさせてもらう。

まず年度計画番号7番の教職課程について、公民については見合わせるということで、公民だけを検討することは難しいということだが、公民を見合わせるということを決めたことは当たり前なのでここだけ取れば3だが、数学・情報課程はこのまま進めて欲しいという期待も込めて、大学の自己評価どおり4と評価を修正させていただければ良いと思う。

57番の教員の人事評価をしっかりとやるということは必要だ。今回の自己評価書には教員評価について書かれていなかったので評価を下げさせていただいたが、出てきた意見書をみていると体制を作って実施し始めているという事が把握できたので、評価を3に戻しても良いと思う。本来は自己評価書に意見書で述べられたことが書かれていればこの議論は必要なかったかと思う。

7番は評価を4、57番は評価を3としたいが、評価委員の意見はどうか。

(委員一同)

- 意義なし

(委員)

- それでは同意が得られたので、年度計画番号7番は4、57番は3としたい。
年度計画番号7番については、教職課程については非常に大きな期待感をうけられており、今後、実習先の確保などハードルを越えて、努力・尽力していただき実現させてほしいという期待も込めて、4と評価をする。
それではこのように取扱いをすることとして、業務実績評価書を事務局で修正の上、評価書として確定したい。これでよろしいでしょうか。

(委員一同)

- 意義なし

(委員)

- それではこの委員会終了後、本評価書を副市長に報告するとともに、大学法人にも連絡したい。

議題(2) 公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び余剰金の使途の承認について

(委員)

- 財務諸表については第1回評価委員会で大学から説明を受けていたが、市の確認、承認について、事務局の方から説明を。

(福知山市)

- 資料4、資料5、資料6により財務諸表承認について説明。
財務諸表について事務局で確認作業を行ったところ、(1) 法規性の遵守、(2) 表示内容の適正性、いずれについても適正に処理されていることを確認して令和5年7月24日付けで承認をした。剰余金の使途についても、令和5年7月24日付けで承認した。

(委員)

- 今の報告について質問や意見はあるか。

(委員一同)

- 質問・意見無し。

(委員)

- それでは議題は以上となる。令和4年度の評価についてはこれで確定とする。

(4) その他

大学への最終評価結果報告

(委員長)

- (大学へ評価を報告)

(大学)

⇒評価委員様のご苦勞に感謝を申し上げたい。我々にとってありがたい評価結果をいただいた。自己評価に沿う形で評価いただいたが、評価委員会からの意見を深く受け止めて、第2期中期計画を進めたい。本当にありがとうございました。

中期計画の変更については、学内の委員会でも検討をはじめている。まだ今年中に素案が出せれば良いという段階。どれぐらいの時間がかかって、求められている指標をどの程度出せるかというところはもう少しお待ちいただきたい。評価委員会にお示しできる段階の物ができれば、意見をいただきたい。時期によっては今年度内に再度お世話になりたい。

(委員)

- 最後に今年度の評価委員会の感想を各委員から一言ずつお願いします。

(委員)

- 最初の委員会でも申し上げたが、評価結果案について非常に整理されていて、年々読みやすくなっている。組織体制も見直しされて、評価書についても指揮命令系統がきちっとしているのが見えてきている。工夫されて上手に運営されていると感じた。一方で学生も増えて、大学の存在も少しずつ市民に浸透してきている。市民にとってなくてはならない大学となっていて欲しい。

(委員)

- 評価委員2年目でまだまだ慣れていない部分もあり、意見がまとまらないと思いながら評価委員を務めた。

個人的には少しでも大学に近づこうと、先日も大学主催の市民講座に参加した。自分から前向きに学び、取り組んでいかなければならないと思っている。菊田委員が言われたように、市民にとってなくてはならない大学になってほしいし、一市民としても大学と積極的に関わっていきたいと思っている。

(委員)

- 評価委員会を通して、普段は感じられない大学や大学教員の方の活動を知ることができた。こうやって携わったことで得たことを地域の人へも返していけたらと思う。プライベートで地域のお店を訪れた時、公立大学の学生がアルバイトでいたが、コミュニケーション能力も高く、市外出身者であったが地元の事を紹介してくれたり、良い学生だった。全国から優秀な学生を集めていただいていると思っており、福知山市の活性化につながっていると感じる。今後も地域に根差した大学であって欲しいし、お手伝いできることがあれば手伝いたいと思っている。

(委員)

- 業務実績報告書については、中期計画に基づいて適切な年度計画を策定してそれを振り返るという作業の精度が年々上がっており、評価もやりやすかった。今年については小項目評価が5段階から4段階になった戸惑いがあり、意見書を出してもらったが、結果として法人側の評価と同じ評価になったことは良かったと思う。平成28年に開学して、2学部体制を設けられ、毎年進歩されている。地域の人と学生が接したり、地域の人が学生を支えようというマインドが醸成されていると感じる。大阪には大学が約60あり、我々大阪公立大学はどうあるべきか考えるが、福知山公立大学は文字通り地域に根差した大学であり、その取り組みをしていることを自負し、それを市民が実感しているという、模範となるような大学ではないかと信じている。今後、教職課程の事、大学院の事とたくさん課題があると思うが、教職員一丸となりいい形で進めていただければと思う。

(委員)

私は評価委員会に携わる中で、自己評価書のシステムが簡素化されて、求めている内容が明確に整理されてきていると感じる。今後文科省の方針で評価の仕組みが変わるといふ動きがあるが、評価方法が変わる中でも、このように分かりやすく評価をしていくという仕組みは重要だと思う。評価される側はここを評価して欲しいという形で評価書を作り進めてほしい。

大学というのは一旦落ち着いてしまふとなかなか新しい取組に着手しないというところがあるが、年々新しい取組をしていて、地域に期待感を持たせるパワーを持っていると感じる。そういう意味で、福知山モデルの実現に尽力していただきたいし、地域の期待感があるという事を意識して、大学の教職員の方は一丸となって取り組んでほしい。

(5) 閉会